お金
歴史館

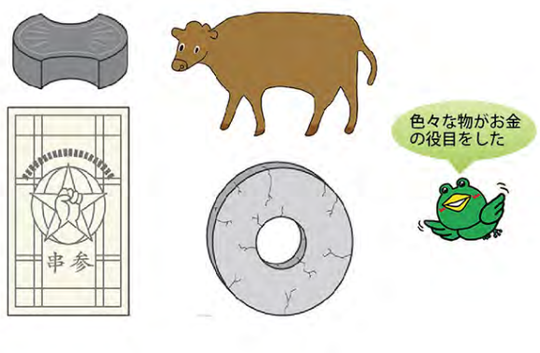
# お金にはどんな歴史があるの？

## 物々交換

大昔、お金というものがなかった時代は、人々はお互いに必要な物や欲しい物があった時、物と物の交換をしていました。つまり、みんなよく知っている「物々交換」と言うことです。その後、多くの人が暮らす社会ができてくると、お金が必要になってきました。

## 物品貨幣

必要な物の物々交換がいつもできるとはかぎらないので、暮らしにおいて不便でした。そこで人々は欲しい物がいつでも交換できる仕組みをつくりはじめたのです。この仕組みがお金のはじまりです。最初のお金は貝、布、家畜、石など、いろいろな物がその役割を果たしていました。これを「物品貨幣」と言います。




## 金属貨幣・紙幣

その後、金、銀、銅などが貨幣として使われました。これを「金属貨幣」と言いました。その後、紙のお金、「紙幣」がうまれ、金額と同じ金や銀とが交換できました。ちなみに世界ではじめての紙幣は 10 世紀の中国の交子 ( こうし ) と言われています。現在の紙幣は金や銀と交換できません。

お金
歴史館

# お金にはどんな歴史があるの？

## 銀行の始まり

今から約 2500 年ほど前のギリシャで、お金とお金をかえる両替商が栄えていました。お金を各都市が自由につくっていたので、そのお金を両替して使っていました。にせのお金もあり、両替商はそれらを見やぶる能力もあり、みんなから信用されていました。そのため、みんなが両替商にお金を預けるようになり、そのお金を貸すようにもなりました。今の銀行の役割を両替商は大昔からやっていたのです。

お金
歴史館

# 日本のお金にはどんな歴史があるの？

## 和同開珎とそれ以前のお金

富本銭（ふほんせん）は飛鳥池遺跡（奈良県明日香村）での 1998 年の発掘調査で出土、発見されました。それにより、7 世紀後半に富本銭がつくられていたことがわかりました。鋳型やヤスリなども出土しています。

写真：奈良文化財研究所

## 和同開珎

西暦 708 年に律令政府によって「和同開珎」( わどうかいちん ) がつくられました。「和同開珎」は当時、中国の文化や仕組みが積極的に取り入れられていた時代で、中国の貨幣「開元通宝」( かいげんつうほう ) をモデルとしてつくられました。大きさも重さもほぼ同じものでした。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

お金
歴史館

# 日本のお金にはどんな歴史があるの？

## 中国銭の使用

その後、政府が貨幣を発行していなかった時代があり、平安時代後期（12 世紀ころ）には主に「中国からお金を輸入」して、日本のお金としてつかっていました。この状態は徳川家康が幕府を開いた江戸時代のはじめのころまで続いていました。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

中国からお金を輸入して使う

皇宋元宝（こうそうげんぽう）

永楽通宝（えいらくつうほう）

## 豊臣秀吉がつくった世界最大の金貨・大判

天下を統一した豊臣秀吉は、新しく「金貨や銀貨」をつくりました。この金貨は「天正長大判」（てんしょうながおおばん）といって、今残っている金貨の中では世界最大と言われています。この大判は武将へのほうびとして与えたりする特別なものでした。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

「天正長大判」（てんしょうながおおばん）
（タテ約 17cm、ヨコ約 10cm）
世界一の大きさ

お金
歴史館

# 日本のお金にはどんな歴史があるの？

## 徳川幕府の貨幣

天下を統一した徳川幕府は「全国で使える貨幣の制度」を広めるため、徳川幕府が独占して貨幣を発行できるようにしました。
小判をはじめとして各種の金貨や銀貨をつくり、それぞれを両替できるようにしました。これが全国に広がり、使われるようになりました。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

徳川幕府の金貨、銀貨、銭貨（せんか・銅）の貨幣と両替のしくみ

## 江戸時代の大判

江戸時代には様々な大判がつくられました。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

江戸時代の大判

慶長大判（けいちょうおおばん・1601年）　享保大判（きょうほうおおばん・1725年）　万延大判（まんえんおおばん・1860年）

## 藩札の登場・愛媛の藩札

江戸時代の中頃から貨幣の不足などで、各藩が「藩札」という紙幣を発行しました。金札（きんさつ）、銀札（ぎんさつ）、銭札（ぜにさつ）などがあり、とくに銀札が多く発行されました。明治時代になるまでさまざまな藩札が発行され続けました。

江戸時代の藩札

（左）越前福井藩銀札
（えちぜんふくいはんぎんさつ・1666年）
※残っている中で最古のものといわれている。

（中）土佐高知藩金札
（とさこうちはんきんさつ・1866年）

（右）武蔵岡部藩銭札
（むさしおかべはんぜにさつ・1857年）

お金
歴史館

# 日本のお金にはどんな歴史があるの？

## 愛媛の藩札（1）

江戸時代には愛媛県の宇和島藩や大洲藩、今治藩や西條藩でも藩札が発行されました。

愛媛の藩札

（上）宇和島藩の藩札

（下）大洲藩の藩札

## 愛媛の藩札（2）

江戸時代には愛媛県の宇和島藩や大洲藩、今治藩や西條藩でも藩札が発行されました。

愛媛の藩札

（上）今治藩の藩札
左より10匁（もんめ）、5匁、1匁、銭3分（ぶ）、2ふん、2粉（小形）

（下）西條藩の藩札
左から丁銭2分（ぶ）、丁銭3分
丁銭1匁（もんめ）
5文目（もんめ）　丁銭10匁

## 愛媛の富くじ

江戸時代には愛媛県内でも、富くじ（今の宝くじ）も発行されました。

富札（今の宝くじ）

左から新居郡船木村発行、松山向井薬店本家発行、
今治圓龍寺発行7397番、4267番

お金
歴史館

# 日本のお金にはどんな歴史があるの？

## 江戸時代の銭貨

徳川幕府は幕府を開いた時から金貨、銀貨についてはとても早く貨幣をつくりました。だけど、銭貨 ( せんか ) においては外国から輸入したお金をしばらくは使い、その後、やっと銭貨、寛永通宝 ( かんえいつうほう ) をつくりました。寛永通宝はその後約 200 年間、全国各地の「銭座」( ぜにざ ) においてつくられ、広く使われました。その後、寛永通宝四文銭 ( かんえいつうほうよんもんせん ) や、銅一文銭 ( どういちもんせん )、原料がそまつな天保通宝百文銭 ( てんぽうつうほうひゃくもんせん ) などがつくられました。

寛永通宝
(かんえいつうほう・1636 年 ) 銅製

寛永通宝四文銭
(かんえいつうほうよんもんせん ) ー表面ー
(1768 年 ) 真鍮製 (しんちゅうせい)

寛永通宝四文銭
(かんえいつうほうよんもんせん ) ー裏面ー
(1768 年 ) 真鍮製 (しんちゅうせい)

天保通宝百文銭
(てんぽうつうほうひゃくもんせん)
(1835 年 ) 銅製 (どうせい)

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

お金
歴史館

# 日本のお金にはどんな歴史があるの？

## 円の誕生

明治 4 年 (1871) に、今使われている「円」という単位の新しい貨幣が生まれました。円 ( えん ) ・銭 ( せん ) ・厘 ( りん ) という 10 進法単位 ( じゅっしんぽうたんい ) で、金貨が貨幣の基本となり、銀貨や銅貨は金貨を補うものでした。はじめ銀貨は貿易用につくられていました。だんだん使う量が多くなって、国内でも金貨と同じくらい使われるようになりました。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

明治 4 年、「円」が使われた最初の貨幣

## 明治初期の銀行券（1）

産業が活発になると、全国に銀行をつくる必要性が高まってきて、全国に 153 の「国立銀行」がつくられました。これは、アメリカのナショナルバンクという銀行の仕組みを参考にし、お札のデザインなどもマネしてつくりました。国立銀行と言う名前ですが、民間銀行でした。その国立銀行で使われるためにつくられたのが「国立銀行紙幣」( こくりつぎんこうしへい ) で、それぞれの銀行が後で名前を入れて使われました。明治 15 年 (1882) に「日本銀行」( 銀行の銀行 ) が開業すると、全国 153 の国立銀行は普通銀行にかわり、国立銀行紙幣も明治 32 年末 (1899) に使われなくなりました。

全国各地につくられた 153 の国立銀行が発行した銀行券です。
アメリカ紙幣をマネして作られたため、とてもよくにています。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

## 明治初期の銀行券（2）

銀行の銀行として日本銀行は明治 15 年 (1882) に日本の中央銀行としてつくられました。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

日本銀行落成の図

明治15年（1882）、日本の中央銀行として開業した日本銀行。下の図は明治29年（1896）現在日本銀行がある場所に移転した時のもの。

立派な建物が建てられた

お金
歴史館

# 日本のお金にはどんな歴史があるの？

## 日本銀行券の発行開始

日本銀行が誕生して 3 年後に紙幣が発行されました。この「最初の日本銀行券」（十円券）は銀貨 10 枚とかえることができました。紙幣の表に「銀貨と引きかえる」という意味の文字が書かれ、基本のお金となる銀貨 10 枚と同じ価値であることを示していました。

また、紙幣は福の神の大黒天（だいこくてん）の図案が使われていたので、「大黒札」と呼ばれており、拡大部分は「この券で銀貨 10 圓（えん）と交換できる」と書かれていました。またこの大黒札 ( だいこくさつ ) は、ニセサツを防ぐ工夫もされていました。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

上：日本銀行兌換銀券（にっぽんぎんこうだかんぎんけん）
( 大黒札十円券 ) （1885 年 )
下：一円銀貨 （1885 年） 銀製 ( 品位 90%)

## 金貨と交換できる紙幣

日本はアメリカやヨーロッパの国にならって、金貨をもとに交換するしくみを取り入れ、明治 30 年 (1897) に法律をつくり、新しい紙幣をつくりました。「金貨と引きかえる」という意味の文字をいれ、「銀」の文字をなくしました。明治 32 年 (1899) には戦争の特別な時をのぞいて、日本銀行が発行する日本銀行券という紙幣だけにまとめられました。

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

昭和 17 年（1942）施行の日本銀行法に基づいて発行された日本銀行券

お金
歴史館

# 日本のお金にはどんな歴史があるの？

## 昭和 17 年の新しい仕組み

昭和 17 年 (1942) に、法律で紙幣を金貨と引きかえることができるという仕組みがなくなり、世の中の様子によって、通貨 ( つうか・お金のこと ) を発行する量を管理したり、調整したりできる仕組みになりました。この仕組みは今の政府・日本銀行によっても行われている仕組みです。

昭和 17 年（1942）施行の日本銀行法に基づいて発行された日本銀行券

日本銀行兌換券
(にっぽんぎんこうだかんけん
1899 年)

日本銀行券
( い十円券 )(1943 年 )

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

## 戦時中の貨幣

日中戦争の拡大から太平洋戦争の終わりまでの間に、お金の使用が増えため、法律をつくり、金・銀・銅以外の新しい素材の金属によって補助貨幣 ( ほじょかへい ) がつくられました。今の硬貨 ( こうか ) のもとになっています。

十銭（じゅっせん）
アルミニウム青銅貨（1938 年）

十銭（じゅっせん）
アルミニウム貨（1940 年）

十銭錫貨（じゅっせんすずか）（1944 年）

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館

## 戦後の新円切り替え

戦争が終わったあと、少しの間、預金の払い戻しのための紙幣が間に合わなくなったので、昭和 21 年 (1946)「新円切り替え」の時、急いで間にあわせるために、今までの紙幣が使えるあかしの紙をはって全国で使われました。

証紙貼付日本銀行券 ( しょうしてんぷにっぽんぎんこうけん )( 百円券）（1946 年 )

写真：日本銀行金融研究所貨幣博物館